

総合フィールド演習 ～人文科学と自然科学から「地域」を考える～

私たちが暮らしをいとなむ「地域」、旅に出たときに「いいなあ」と感じる「地域」、さまざまな映像を通じて「面白いな」と思う「地域」は、いったいどんないきさつで形づくられて、私たちの目の前に「今の魅力ある姿」となっているのでしょうか。また、それらの「地域」がもつどんな要素がわたしたちに興味をもたせてくれる魅力をあふれさせているのでしょうか。この講座では、「地域」や「場」がもつ魅力に注目し、講師と生徒がお互いに刺激しあって考えていきたいと思えます。その際、その「地域」の全体像を、たとえば文学の立場から、歴史の立場から、といった人文科学の視点、はたまた地質の立場から、あるいは物理学の立場からといった自然科学の視点などできるだけ多角的な視点から考えていきます。

参加してくれる生徒と講師ができるだけよく話し合い、こうした「地域」の考察にふさわしい「場」「地域」を選定して、実際にフィールドに出て現場の「風」に吹かれます。まずは、学期中には関東近県からはじめて、長期の休みには少し足を延ばして宿泊を伴う「場」「地域」に行きたいと考えています。

<講座の概要>

日時：不定期(学期に5回程度の集まりを設定、学期に1回のフィールドワーク、夏休みに2～3泊のフィールドワーク)

対象：中学2年生～高校2年生の希望者(約15名を予定。多数の場合、申し込み時に提出する動機と抽選で決定)

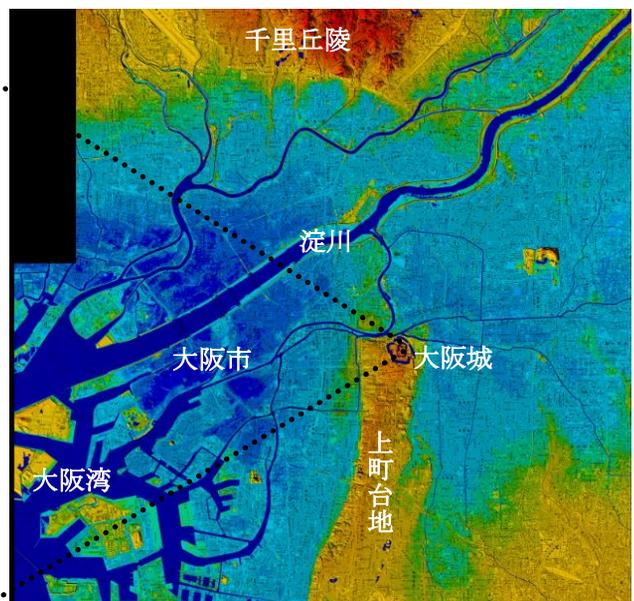
担当者：上村(理科)・奥村(国語科)・山田(理科)・横井(社会科)

講座説明会：4/18(火) 15:45～ 合同22教室(2号館2階)

申込方法：この講座はWebでは申し込みません。受講希望者は説明会に参加して、講座の趣旨や費用などを確認した上で、説明会にて参加を申し込んでもらいます。希望者多数の場合は、説明会の時に抽選とします。また、説明会当日に、講座を受ける動機・問題意識などをA4用紙1枚にまとめて持参すること。

講座の進め方の指針：

- ◆ 何か決まったことや既定のことがらを一方的に伝えたり、教え込んだりすることはあまりしません。全ての説は、現在、わかっている情報や段階で考えると、比較的合理的に納得しうる「仮説」にすぎないという立場をとります。教師対生徒ではなく、同じ立場で学び合ひましょう。(何か決まった答えを出さないといけないのではない)。
- ◆ 受講生から出た意見や考えを大切に、できるだけいかします。場合によっては、講師がこれを受けて調べてくることもあります。また、講師と受講生共通の「宿題」「課題」にすることもあります。ともに刺激しあう形で学ぶ講座にできればと考えています。
- ◆ 目玉となるフィールドワークは、1、2学期にそれぞれ日帰り1回ずつ、夏休みに3～4泊で1回を考えています。場所は話し合いで決めます。前者は、関東一円なので交通費くらいですが、後者は、費用として4～5万円はかかる可能性があります。負担軽減にできるだけ努めたいとは思っています。



▲大阪城は、戦や災害を考えて台地の先端の小高い所に作られています。こういう場所でのフィールドワークを想定しています。

デジタル標高地形図 (©国土地理院)
赤系は標高が高く、青系は標高が低い